総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要（平成30年度）

2. 分野別状況 （2）地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野（2/4）

	総合評価（ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算）	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見（主なもの）
ながさき海洋・環境産業拠点特区 （長崎県、長崎市、佐世保市、西海市）	4.2	4.8 進捗度 ・県内造船所による高付加価値船・省エネ船の建造量 111% ・県内造船所による環境関連機器の取扱件数 102% ・海洋再生可能エネルギー実証プロジェクト実施件数（累計） 167% 等	3.3 財政支援等 ・燃料電池船技術評価FS事業 地域独自の取組 ・ものづくり支援補助事業 ・海洋エネルギー関連産業集積促進事業 等	4.3	・全体としては、すべての評価指標で目標値を達成していることは高く評価できる。この勢いを更に加速すべく、支援措置の活用と地域独自の取組における今後の工夫が期待される。 ・新造船需要の低迷と厳しい競争環境の中で、高付加価値・省エネ船への特化による方向性が順調に実現できている。 ・評価指標（1）「県内造船所による高付加価値船・省エネ船の建造量」が1年で大幅に増加していることを考えると、その変化が特区の努力によるものなのか、制度的な変化を受けての効果を含むものか分からないが、最終年度の目標数値はもう少し大きくてもよいのではないか。 ・地域独自の取組（財政・税制支援措置）については、中長期的な視野で評価する必要がある一方で、効率的な支援（高い成長や潜在力のある企業・事業を対象とした支援）が行われているかも検証する必要がある。 ・IMOのバラスト水管理条約が発効されて間がないので、まだ効果が出ないのは仕方がないかもしれない。